

課題と必要とされる取組 (1/3)

(1) 認知症ケアの課題

ア. 認知症ケアの人材不足認知症ケアに限らず、介護施設に勤務する介護スタッフ全体の人材不足は中国でも日本と同様に問題となっている。元々、介護スタッフは家事手伝いと同様、地方からの出稼ぎ労働者が担う事が多く、低学歴の方も多いため、識字率が低いという問題もある。全体的に低賃金でもあり、需給バランスは悪く、需要過多の状況である。看護師の資格をもったスタッフも現場の幹部スタッフには多いが、医療を知る看護師と出稼ぎ労働者の間の質の差も、現場での介護の質の格差を助長する原因となっている。

イ. 介護者の負担と認知症ケア専門施設の施設数の推測

中国老年保険協会アルツハイマー病支会と人民日報（健康時報）によると、中国全国30省（直轄市含む）の総合病院、精神専門病院の医師・看護師の協力を得た1,675件のアンケート調査結果から、在宅で家族・親族が介護を実施している方の中で（母数は不明）、「介護者の日常生活に影響が出ている」との回答が78.4%、「介護者が今の生活状態から解放されたいと感じている」との回答が74.4%と非常に高い割合を示しており、在宅介護における家族・親族への負担が非常に大きいことが伺われる。一方、前述のとおり、認知症ケアに特化した専門施設は非常に少なく、まだ中国全土でも数件程と推測されており、認知症ケアの専門施設の不足は明白である。

課題と必要とされる取組 (2/3)

ウ．認知症への理解と啓蒙の必要性

先の中国老年保険協会アルツハイマー病支会と人民日報（健康時報）の調査においても、親族が認知症となっているに関わらず、「患者の記憶低下は自然な老衰によるものなので、治療する必要はないと思っている」と答えた家族の方は、41.9%と非常に高い割合を示した。**認知症が老衰によるものと誤解し、適切な対応を実施せず、暴力・暴言や徘徊等の周辺症状（BPSD）悪化による負担を感じているご家族が非常に多いのが現状**である。病院や介護施設においても、介護する側の認知症への理解も乏しく、認知症患者が抱える問題を、介護者が正確に理解し対処する必要がある。

（２）必要とされる取組

ア．**認知症ケア専門施設構築と人材育成正しいケアを提供できる場が不足していることと併せて、認知症を正しく理解し、認知症ケアを提供する人材も不足しており、その育成が急務**である。人材育成・教育を進めるにあたり、ケアを提供する側の理解促進をはかり、適切なケアを提供できる土台作りが必要とされている。また、より多くの方に認知症を正しく理解して頂くため、認知症ケア専門施設を通して認知症の啓蒙活動を実施していくことが今後求められるものとする。

イ．認知症早期発見の必要性認知症を発症された方への対応は認知症ケア専門施設で実施できるが、**いかに認知症にならないようにするのかという予防対策も、今後の大きな社会課題**であると認識している。認知症を発症してからの予防では意味がないため、いかに早期に認知症の兆候を発見し、予防介入を施していくかが重要となる。WHOが公開している「認知症と認知機能低下のリスクを減らすためのWHOガイドライン」に、以下のようなものがあるが、リスクを低減するために、いかに個人個人が行動変容を図っていくかが重要となる。

課題と必要とされる取組 (3/3)

＜WHO：認知症と認知機能低下のリスクを減らすためのガイドライン＞

- ・運動・身体活動には認知機能低下を予防する効果がある。
- ・栄養バランスの良い健康的な食事はすべての成人に勧められる。
- ・肥満や過体重のある人では、介入して適正な体重にコントロールすることで、認知症のリスク14を低下できる可能性がある。
- ・高血圧のある人は、WHOのガイドラインに従い適切な治療を受けるべき。
- ・糖尿病のある人は、適切な治療を受け生活スタイルを改善するべき。
- ・喫煙は身体の健康を害するだけでなく、認知症と認知機能低下のリスクにもなる。煙草を吸う人は禁煙が勧められる。
- ・ビタミンB、E、多価不飽和脂肪酸、マルチビタミンのサプリメントは、認知症予防の観点からは推奨されない。
- ・過度のアルコール摂取を習慣としている人には、認知症予防の観点から、飲酒量を減らすか断酒が勧められる。
- ・社会的な交流と支援は、人生を通じて健康や幸福に強く関連している。生活において社会的な関わりは必要である。

行動変容を起こすにはトリガーが必要となるが、健康診断を受けることで、生活習慣を見直すことができるのと同様、認知症も早期発見のための検査を受ける事で、認知症への意識を高め、生活習慣を見直す事が出来るものとする。認知症になるリスクが高い場合はもちろんのこと、リスクが低い場合でも、生活習慣を見直すきっかけ作りになるため、認知症早期発見の必要性を訴えていくことは重要である。